

ふれあい鷺山

鷺山校区コミュニティー誌



第54号

2020年3月31日

発行

鷺山自治会連合会

鷺山まちづくり
協議会

地域コミュニティ情報サイト「さぎ山の広場」では、掲載情報を募集しています！
地域の出来事、募集情報等があれば sagiya.machikyoun@gmail.com にご連絡ください。



新成人を祝い励ます会 謝辞

本日は、私達の成人の門出に対し、このような盛大な式典を催して頂き、誠に有り難うございます。また、ご来賓の方々、自治会長様、沢山の皆様より励ましのお言葉を賜りまして、新成人一同を代表し、心より感謝申し上げます。

これまでの二十年間を振り返ると、嬉しいこと、楽しいこと、辛いことや嫌な思いなどたくさんありました。私自身は、ここにいる新成人のみならず少しだけ早く社会に出て、仕事、結婚、子育てと今まで以上に、多くのことを経験しました。決して順調に進んできたわけではありません。

でも、それを乗り越え、成長することが出来たのは、いつも私を支え、見守り、励ましてくれた家族・友人・地域の皆様のおかげだと感謝しております。新成人となった今、私達の多くはこれから社会へ出ていきます。鷺山に生まれ、育ち、学んだことを誇りに思い私達に出来る事を一つずつ積み上げ、次の世代に引継げるような一人の大人として責任ある行動を執り、それぞれが社会へ貢献することで、今までお世話になった方々へ少しでも恩返しをしていきたいと考えております。

最後になりますが、これまでの二十年を見守り、支えてくださった皆様、家族、先生方、また、本日の式典をお世話してくださった自治会の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、今後とも温かい目でご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、謝辞とさせていただきます。

令和二年一月二日 新成人代表 後藤 大地

祝 鷺山校区 敬老会



令和元年9月16日(祝)に鷺山小学校体育館で、鷺山校区敬老会が開催されました。この日は500名を超える参加者がお越しになり、体育館はいっぱいになり元氣な声が響いていました。式典の冒頭には、乾尚美自治会連合会長より金婚祝いの伝達が行われました。苦楽を共にされ50年を振り返る節目のお祝いを皆さんに伝えられました。



その後、敬老会参加者の皆さんをお祝いするため、民謡クラブ、青山中学校合唱部、しらすぎコーラスクラブの皆さんが、舞台を披露されました。また、大垣



女子短期大学のウインドアンサンブルの皆さんの演奏が披露され、アンコールでは、青山中学校合唱部の皆さんも参加し唱歌ふるさとを披露して頂きました。

毎年恒例の鷺山商店街、正木町発展会の商品券のくじ引きでは、来場者の皆さんが順番にくじを引いていかれ今年も大いに盛り上がった敬老会になりました。

ガンについての知識を 健康講座

令和元年9月7日(土)と14日(土)の2週に渡り、鷺山公民館で健康講座が行われました。

第一弾は岐阜市地域包括支援センター北部の職員や北部ふれあい保健センターの保健師を招き『あなたは健康ですか?』をテーマに血圧、骨密度チェックなどの健康測定や、女性のための健康ガイドを通して乳がんの早期発見に向けたセルフチェックについて紹介いただきました。

続く第二弾は岐阜大学医学部附属病院乳腺外科長の二村学先生を講師に招き、『がんと闘う、新時代のがん治療』と題して講話を頂きました。



二村先生の御専門は乳がんということも多く女性の皆さんが講座に参加されています。がんという病気が罹患する国民病となりました。その一方で、昔感じられた『不治の病』というイメージから『早期発見出来たら完治することが出来る病』に変わってきたそうです。そのため、一人一人が早期発見に向けてどのような取組が必要なのか丁寧にお話頂きました。

あらゆる病気は『遺伝要因』と『環境要因』の2つの要因が絡みあつて発症します。その中でもがんという病気は、遺伝要因と環境要因の両方の影響を受ける中で発症します。傷ついた遺伝子による遺伝要因は排除することは困難ですが、生活改善等に取り組み環境要因を改善することで、できる限りがんを罹患しないようにすることが、私たち出来る最大の予防ということなのです。

予防、早期発見に対する対策としても、それぞれの年代によって発症しやすいがんの傾向が異なります。消化器系のがんが年齢を重ねた40歳以降から発症率が高くなるのに対して、子宮頸がんや乳がんは、30歳〜40歳ぐらいの比較的若い時期に発症しやすいがんという特徴を持っています。そのため、若い世代の方が、乳がん検診、子宮頸がん検診を受けて早期発見、早期治療に取り組むことが重要です。

乳がんについては、再発すると根治が難しいという特性があることから、早期発見、早期治療が必要です。幸い乳がんは、消化器系のがんとは異なり、乳房等日頃触ることのでしこりの発見等により、自分自身で確認することが出来るので、比較的早期発見の確率も高いです。

また現在では、がんゲノム医療と呼ばれる遺伝子解析を行った上で、より効果的な治療を取り入れる方法も始まっています。

遺伝子レベルでの対策の時代を迎えたがん治療。これからの医療が私たちの命を守るために発展していくことが感じられた講座でした。

「電話番号が変わった」「代わりの者にお金を渡す」「カードを預かる」「宅配便でお金を送金」

「先に保証金を送金」

「還付金がある」

は、特殊詐欺の常套句！一人で悩まず家族や警察に相談を！

親子ふれあい教室



第1回は、親子で手形遊びです。台紙にお子さんのかわいらしい手形や足形のスタンプを押して、お母さん達にメッセージを添えて頂きました。参加したみなさんは、元気に大きく育ってほしい想いをそれぞれの言葉で記して頂きました。その後、お住まいの地区別に分かれて親子で交流会を持ちました。近くにどのような方達がお住まいなのかまだ分からないお母さんもおみえになる中、たくさんママ友を作ってもらえるよう交流を深めました。



今年も鷺山青少年育成市民会議、岐阜市社会福祉協議会鷺山支部共催で「親子ふれあい教室」が開催されました。鷺山にお住まいの0歳児の子育てに奮闘中の家庭に案内して、今年は23組48名の親子が参加されました。

第2回は、鷺山保育所から2名の先生を招いて一緒に歌に合わせてスキンシップをしたり、手遊びを通して楽しみました。パネルシアターでは、音楽による大きな絵本「はらへこあおむし」

を楽しみました。いつもと大きさが違う絵本に、子ども達も興味津々でした。



第3回は、岐阜北消防署の職員の方を講師に招き、乳幼児の救急救命講習を行いました。救命活動での乳幼児に対する胸骨圧迫による心肺蘇生の方法や、AEDの取扱いなどを学びました。AEDは「大人用と乳幼児用の切り替えボタン」があるので、そのボタンを切り替えれば、乳幼児にもAEDが使用できることを教えてもらいました。



3回の親子ふれあい教室に参加して下さった親子の皆さんには、写真付きの修了証が手渡されました。



第3回は、岐阜北消防署の職員の方を講師に招き、乳幼児の救急救命講習を行いました。救命活動での乳幼児に対する胸骨圧迫による心肺蘇生の方法や、AEDの取扱いなどを学びました。AEDは「大人用と乳幼児用の切り替えボタン」があるので、そのボタンを切り替えれば、乳幼児にもAEDが使用できることを教えてもらいました。

味わう教室「キッズトントン教室」

令和元年11月14日(木)に正木公民館にて、岐阜市食生活改善推進協議会鷺山支部の皆様のご協力で、味わう教室「キッズトントン教室」が開催されました。今回のメニューは、豆腐クリームのパン格拉タン、スープ、さつまいもの茶巾しぼりの3品。家庭でお手伝いさせると大変だと思いますが、一緒に調理することで、子ども達も食べることに興味をわくかもしれませんですよ。ぜひ家でも楽しい食育を。



サンタと一緒にクリスマス会

鷺山校区老人クラブ連合会の皆さんと交流

みんなあつまれ！子育てサークル さぎっ子くらぶ

新年もいっぱい遊ぼう！

ベビーマッサージで親子でリラックスタイム

大災害に備えて 安否確認訓練



令和元年10月27日(日)鷺山校区自主防災隊では、大規模な地震が発生したことを想定して『安否確認訓練』を行いました。今まで地区で実施してきた防災訓練は、発災時の消火や救命、救出活動に対応する訓練でしたが、実際に大規模災害が発生した場合に、被災状況を把握し、どのような支援が必要で、どの地区に救助を向かわせたらよいのか、情報を統括する訓練が行われていませんでした。そこで今年度は、震度6強の大規模地震が発生した直後からの安否確認訓練を実施し、地域の被災情報をどのよう



あるのか、体験していきました。地震発生の前8時直後に、鷺山公民館に自主防災隊本部が開設され、地区担当の役員及び市職員が集合し、被災情報のとりまとめ準備を行いました。その頃、各自の自治会では、自治会毎で任命された『防災隊員』が、自治会員の安否情報、

家屋の被災情報についてとりまとめを行いました。各自治会でまとめられた安否情報、被災情報は、総括情報隊員が自主防災隊本部に報告に行きました。実際に災害が発生した際は、状況を把握の報告を『発災後3時間までに』を目標に進めることになっていきます。安否確認訓練の終了後には、鷺山校区自主防災隊関係者が一堂に会して、安否確認訓練の総括を行いました。初



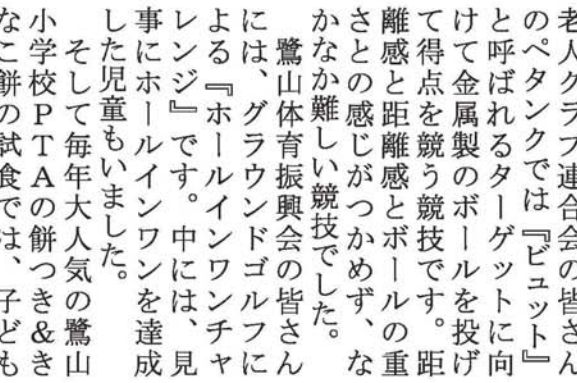
元気いっぱい アトラクションに挑戦 子どもフェスティバル



令和元年11月2日(土)鷺山小学校にて、鷺山校区子ども会育成会主催の子どもフェスティバルが開催されました。今年もインリダー生が、事前準備、当日の運営に取り組んでくれました。今年度は『雑がみ回収』にも挑戦し、500kgもの雑がみを回収することが出来ました。雑がみ回収活動が一段落したら、いよいよフェスティバルのスタートです。



アトラクションは、多くの各種団体の協力も頂きながら運営されました。鷺山老人クラブ連合会の皆さんのペタンクでは『ビュット』と呼ばれるターゲットに向けて金属製のボールを投げ、得点を競う競技です。距離感と距離感とボールの重さとの感じがつかめず、なかなか難しい競技でした。鷺山体育振興会の皆さんには、グラウンドゴルフによる『ホールインワンチャレンジ』です。中には、見事にホールインワンを達成した児童もいました。そして毎年大人気の鷺山小学校PTAの餅つき&きなこ餅の試食では、子ども達が慣れない手つきで、杵で餅をついていきました。



ルシートに広がっているお魚を釣り上げていきました。その他にも、インリダー生が運営するボーリングやループディスプレイにも挑戦していきました。2時間のフェスティバルもあっという間に時間が過ぎていきました。



家庭教育啓発市民運動 「決めて、守ろう！」 「我が家のルール」 皆さんの家にも我が家のルールありますか？

毎月第3日曜日は、「家庭の日」です。家族でいっしょに過ごして楽しい団らんを！

家族で集う

男の料理教室



そば玉を寝かし終えたら、今度は「延し」と「包丁による切り」です。延し棒を匠に操り、そば玉が見事に延ばされていききました。端の角出しも見事にすすみ、四角く延ばされていききました。その後、見事な包丁さばきで細いそばが切り出されていききました。各グループでも自分たちで作ったそば玉を延し棒で延ばしていききました。参加者の中には手慣れた手つきで見事なそばを完成させていく方もおみえになりました。

令和元12月14日(土)に鷺山小学校にて、家族で集う『男の料理教室』が開催されました。年末恒例となってきた麺道会の末次 英二さんによるそば打ち体験です。はじめに、水廻し、菊ねりを披露頂き、素となるそば玉の作り方を教えて頂きました。



打ち終わったそばは、鍋に沸かしたたつぷりの湯で茹で上げていききました。茹で上がったそばは、水でキリツとして、完成です。薬味も乗せて見事な手打ちそばの完成です。



ふるさとふれあい清掃



令和元年11月9日(土)に『ふるさとふれあい清掃』『ふるさとふれあい活動』が行われました。

ふるさとふれあい清掃はクリーンシティぎふの清掃活動の一環として行われています。小学校児童も参加し、3年生以下の児童は、各自自治会で、家の周りや日頃使っている公園や地元の水川、清掃など身近な場所を清掃しました。



4年生以上の児童は学年別に分かれての清掃です。4年生は鷺山公園の清掃。5年生は鳥羽川堤防周辺のゴミ拾い。6年生は鷺山小学校のグラウンド側溝の泥上げをそれぞれ受け持ちました。地域一帯となって取り組んだ清掃活動でキレイになった鷺山！いつでも美しいふるさとを守っていききたいですね。

そして、清掃活動終了後には、鷺山小学校で、鷺山青少年育成市民会議主催のふるさとふれあい活動が開催されました。この活動は地域住民が講師となり、児童と一緒に様々な体験活動を通して、地域の方々の交流、日頃体験することができない活動への取り組みを進めています。

1、2年生の児童は、おはじきやコマ回しなど、昔のあそびを体験しました。

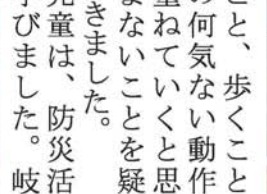
3年生の児童は、切り出した竹を使った竹箸づくり体験です。



5年生の児童は、高齢者が日頃の生活でどのような苦労があるのか、装具を付けての疑似体験。文字を読むこと、歩くことなど、日頃の何気ない動作が、年齢を重ねていくと思えば、年齢を重ならないことを疑似体験していききました。

6年生の児童は、防災活動について学びました。岐阜市北消防団鷺山分団による『ポンプ車の放水体験』。鷺山水防団による『土のう作り体験』や溺れた人を救出する『スローバッグの投げ込み』。女性防火クラブによる発災時の『炊き出し体験』や避難所で簡単に使用できる『新聞紙を活用した簡易食器の作成』を学びました。

どの体験も地域の方が支えてくれている活動で、またとない体験が出来た事と思います。



毎月第3火曜日は、資源分別回収の日です。

地域の課題解決に向けて
柴橋 正直 岐阜市長と
まちづくり意見交換会
を開催

令和元年12月21日(土)に鷺山公民館に、柴橋 正直 岐阜市長をお招きし、鷺山地域の抱える課題の解決に向けたまちづくり意見交換会が開催されました。鷺山地域では、鷺山自治会連合会及び鷺山まちづくり協議会が中心となり、鷺山地域の抱える課題を抽出し、その課題解決に向けた提言をとりまとめ、令和元年8月に提言書として岐阜市に提出しました。今回は、この提言書を中心に、よりよいまちづくりに向けて、柴橋市長と意見交換を行いました。鷺山自治会連合会の役員及び各種団体の代表が参加しました。



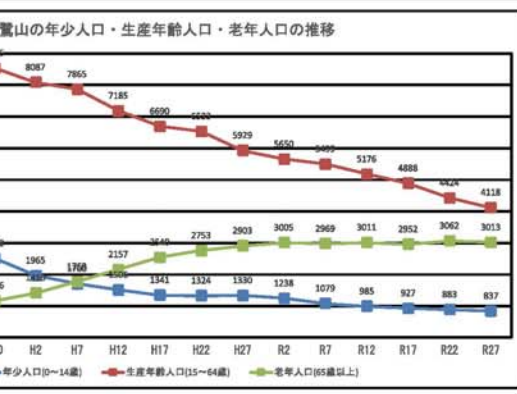
この日は、主に以下に示す3点の課題について意見交換がされました。
① 公民館をはじめとしたまちづくり拠点の再整備
② 発災時の避難所開設を含めた防災体制の再検討
③ 都市内分権を視野に入れた自治会及び各種団体組織に対する行政からの依頼案件活動のブラッシュアップ

柴橋市長からは、公民館の改修、移転にあたり、複数の施設と併せて再整備することの効果、効率化についても前向きな発言を頂くと共に、移転候補となり得る区画整理関係者との合意形成の重要性について発言がありました。防災対策では、自助、共助、公助のあり方について、今一度考える機会として、住民、行政が力を合わせて進んで行く必要性がある旨の発言があると共に、防災委員会等日頃の住民の協議の場に、行政職員が参加し、信頼関係やよりよい防災体制を構築していくことが重要であると発言がありました。都市内分権を視野に入れ

た、住民自治・自治会活動のこれからについては、今後のまちづくりを進展させるためのとりまとめ、住民自らが考え意見が交わされるまちづくりを進めていくと共に、住民自らがまちづくり活動の「クラッシュ&ビルド」による活性化を進めてほしいとエールを頂きました。1時間30分という短い時間の中で、盛りだくさんのまちづくりに関する意見交換となりましたが、鷺山地域にとっては、非常に有意義且つ重要な一歩となつたと感じました。

**多世代交流で
住みよいまちへ
鷺山地域の
まちづくりビジョン
を策定しました。**

『多世代交流で住みよいまちへ』鷺山では、これから自治会連合会関係者をはじめ、鷺山地域で活躍されている各種団体関係者からヒアリングを行い、令和2年に『鷺山地域のまちづくりビジョン』をとりまとめました。鷺山地域では、住居表示問題という大きなまちの課題を抱えていましたが、そ



の大きな課題も地域住民と行政の協働活動によって乗り越える第一歩を踏み出すことができました。一歩一歩地道ですが、住みよいまちに向けて日々活動を続けています。これからは、人口減少、少子化、高齢化など社会状況が目まぐるしく変化する中で、様々なまちづくりの課題が顕在化してくると思われれます。

- ① 土砂災害警戒区域内に立地する鷺山公民館と鷺山小学校体育館の移転及び再整備
- ② 鷺山公園の再整備検討
- ③ 鷺山地域で子育てをしたくなる子育て環境の整備
- ④ 発災時の避難所開設を含めた防災体制の再検討
- ⑤ 高齢者等社会的弱者が安心して暮らせる生活環境の整備
- ⑥ 住居表示の整備による住みよいまちづくりの推進
- ⑦ まちづくり活動の活性化に向けた若者世代のまちづくり活動への参画の推進
- ⑧ 自治会・各種団体の活動のブラッシュアップと都市内分権に向けた体制構築



スペシャルエンターテインメント ミヨージ・ヤム・ダと 鷺山自治会連合会のゆかいな仲間たち演奏会

緑ヶ丘地区 代表理事 山田 美代治

要介護一つ手前の『フレイル』になる事を予防しよう！



以前緑ヶ丘地区の『ふれあいいきいきサロン』でサクスを披露した縁から、鷺山校区文化祭にも、鷺山自治会連合会として『何か催し物を行うことができなにか！』と声をかけられて『やったあ！お舞台だあ？』そこで、何を行うのか『動揺しよるか？』いや『宣謡歌唱』に決めた。

あつという間に鷺山校区文化祭当日となり、この『ゆかいな仲間たち』の司会役の正木地区の佐藤 富昭副会長との軽い打合せをして、ほぼ全て即興のアドリブとする。

勿論、演奏の20分間が無事に済むのか不安でした。演奏は、「春の小川」から始まり「我は海の子」で一時休み。司会の佐藤 富昭副会長とのトークで失笑を誘い「七つの子」から「ふるさと」そしてゆかいな仲間たちと一緒に「もみじ」を歌い、アンコールを強制して何とか無事に済みました。楽しんでもらえたかな？

後日、見知らぬ人から「文化祭、面白かったよ！」と声を掛けられました。鷺山校区文化祭の舞台で演奏できる機会を与えていただきありがとうございます。

また「ゆかいな仲間たち」とステージに立ったことも大変楽しかったです。

「三世代みんなでつくる秋の祭典」 鷺山校区文化祭 フォトギャラリー



ミニ集会報告
「知っていますか? ネットのホント!」
 情報モラル教育研究所
 代表 上水流信秀

令和2年1月20日(月)に鷺山公民館でお話しした内容をお伝えします。

◆子どもたちは 気を付けている?

ネットやスマホ…。今では子どもたちにとって無くてはならないものになっていきます。大人は、それを見てハラハラしながら、でもどうやってアドバイスしたらいいのかかわからないでいるのが現実です。子どもたちに聞いてみると大半の子が

「気を付けて使ってるよ!」と答えます。本当にそうなのでしょうか?

これは、ある犯罪に巻き込まれて命を失った子が、死の半年前に友達と一緒に「ネット生中継」

をしてい
る画像で
す。この
子たちは、
顔をマス
クで体操
服の名前
をテープ
で隠して
撮影して
います。
「自分を
守って



◆バレないから大丈夫?

子どもたちは、ネットの中の発言や行動を「何やってもバレない」と勘違いしています。実際はどうなのでしょう。ネットの中の会話やコメントをたどり、個人が特定されることは珍しいことではありません。

LINEのトークでも、必ず相手の「本名」で投げかけ

てしまう子が見られます。子どもたちに人気の「ゲーム実況サイト」では自分の学校名や友達の名前を「コメント欄」

に書き込んでしまうこともあります。コメント欄はその場で消えてしまうので子どもたちは「残っていない」と感じる

のでしよう。しかし、現実とは違いますが、画面から消えてい

ても、その子の足跡はネットの中に保存されているのです。

子どもたちは、「自分のことが保存されている」ことに

ついて、とても無頓着です。SNSが「あたりまえ」の傾向が低年齢化していくにつれ、その危険性はさらに増えています。

◆どんな画面でも アップしちゃう!

こんな画面を講演ではお見せしました。子どもたちがSNSに投稿している例です。



バイト中の悪ふざけをアップしてしまったりどう見ても違法性のあることを「悪ふざけ」で、アップしてしまったりした例です。

こうした投稿は、「炎上」といってネットの中で大騒ぎになることがあります。時に

は、バイト先を倒産させるような大きな問題に発展するこ

とさえあります。しかし、子どもたちはそこまでを想像す

ることができません。「そんなつもりじゃあ!」と慌てる

だけです。アップする写真の中には、

個人の名前や学校・学年といった個人情報まで書き込ま

れています。子どもたちは「知って!」本当にそうなのではないのか?そこに目を向け

◆今の子どもたちは たいへん!

私たち昭和の世代(57歳)の子供時代は、ある意味で楽な時代でした。学校帰りに長い時間道草することは当たり前のことでしたし、都合の悪い時には小さなうそを使って約束をすっぽかしたりすることもできました。その中で、「子どもなりの平和」が守られていたのです。

しかし、今の子どもたちは大変です。低学年の子でもLINEグループを作っている事例が、たくさん見られます。ゲームサイトでもグループを作らなければ参加もできません。たぐさんの人とい

が、これが得意な子はいいかもしれませんが、一方で、そういうことが苦手な子にとって

は、とても大変な時代になってきました。

そんな状況が一番表れているのがLINEに代表されるSNSです。それは、子どもたちにとって、とても便利な

場であり同時に、「息苦しい」場にもなっています。

その理由の第一が、SNSが「ネットいじめ」の場になっていることです。講演では、

ネットいじめについてもお話ししました。

ニュースなどで取り上げられるネットいじめは、不法性や犯罪性の高いものがそのほとんどです。例えば、集団で

暴行したりする様子を投稿する

最初の犯罪であり、議論を

待つまでもなく「ダメなこと」なのです。これは、子どもたちも十分「分かって」います。

本当に気を付けていかなく

てはならないことは、「違法性の少ないネットいじめ」だ

とお伝えしました。



この図にあるように、違法性の少ないいじめの方法は様々です。トークのグループに入

れてあげない「仲間外し」や、その子がトークに入った瞬間

に!ほかの子が全員退出!というような、悪意に満ちたこ

とが行われているのが現実です。

そこで受ける心の傷は、私たち大人の想像をはるかに超

えるものです。もちろん、被害を受けた場合、子どもたちは親や学校などに相談するこ

とが多いのです。しかし、ネットの中の現実と明日からま

た学校で実際に「会わなければいけない」現実の中で苦しみ続けている子が多いため、それ

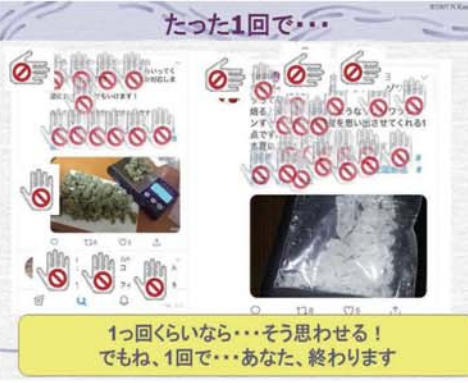
情報モラル教育研究所のホームページはこちらのQRコードからどうぞ



親子で一緒にユーチューブを見ながらネットを学ぶなら、こちらのQRコードからどうぞ



◆一度で人生を失う!? 子どもたちは言います。「ちよっと、ヤバいかも」。そういったことに興味を持ってしまいうのも、子どもたちの特性です。



この画像は、SNSの中に普通に見つかる、違法薬物の購入を誘っているものです。画像の禁止マークの下には、取引の連絡先や方法、価格まで明示してあります。もし、自分のお子さんがこういった情報にアクセスしてしまったりと思うだけで、背筋が凍り付くものです。ネットの向こう側には、様々な悪意を持った情報があります。しかし、表面上「なんの悪意も感じない、むしろ、思いやりさえ感じる、極めて危険なサイトもあります。それは、『相談やアドバイス』という形で、子どもたちに近づいてきます。講演では『自殺サイト』・『家出誘引サイト』などの例をお話ししました。

◆今年予想される キケン ネットの世界は、日進月歩です。今年も、様々なキケンが新しく子どもたちの周りに降り注いでくるはずで、3つのことについてお話していきます。

一つ目は、『位置情報共有アプリのキケン』です。現在は女子高生中心に流行しているものが、どんどん低年齢化してきます。簡単に言えば『友達みんなが、自分の場所を知っている』アプリです。一度、スマホにインストールしてしまえば、24時間365日自分の位置情報を垂れ流すのです。『友達だけ共有』しているかをチェックするのが難しいものです。あなたのお子さんが『どこにいるのか』を多くの他人が知ることになります。二つ目は、『スケジューリング共有アプリのキケン』です。これも自分の予定を自動的に『お友達に垂れ流す』ものです。共有する相手を親であるあなたが把握できるので、よろうか? 三つめは、『動画投稿アプリの低年齢化』です。今年中に5Gと呼ばれる新しい規格が広がってきます。これにより、動画投稿は今よりずっと手軽になってきます。子どもたちに人気のティックトックに代表される動画投稿アプリの使用がますます低年齢化するでしょう。



この画像は、小学生が自分の部屋で投稿したものです。体操服には名前が書いてあります。また、胸には学校名がはつきりと見えます。さらに壁の絵には、自分の学年と本名が書かれています。これが、あなたが特定される『個人情報』がいつばい入ります。しかし、動画投稿アプリが極めて短い時間で簡単に投稿できてしまうのです。子どもたちは見直さず、あなたの前にお子さんもこうして投稿してしまうのです。あなたが投稿したように、あなたのお子さんもこうして投稿してしまうのです。◆家庭でどうすれば いいのでしょうか こういった状況の中で、ご家庭でどんなことに気を付けていけばよいのでしょうか。講演の中では例を挙げて説明しました。一番大切なことは、『やみくもに禁止したり規制したり

しない』ことです。大人は、めんどろになる、すぐに『禁止』をします。香川県で『スマホゲーム禁止条例』が提案されたことがその例です。禁止されれば子どもたちは「はい」といいます。そして「隠れて」使うようになるでしょう。そうすると、ますます問題は複雑になります。

『禁止』するより、『話し合う場』を作りましょう。「ねえ、そのアプリどうなってるの」、「どんな人と交流できるの」、「だいたいどうぶ」と、家庭で話し合う機会を作ってください。すると子どもたちも変わってくるはずで、位置情報共有アプリを見せながら、「これ、さ、こうやってやると、自分の場所を隠せるんですよ」と、彼らなりの情報を言ってくれるようになります。それを、「危ないよ! だめですよ! やめなさい」と言わずに、「気を付けてるつもりじゃ、だめかもよ」と、アドバイスをするチャンスが生まれます。そういった情報を親さん同士で交流することもとても重要になってきます。「うちの子、〇〇っていうアプリやってるんだけどおたくの子どう?」。こうして、保護者の中にも情報のネットワークを作っていくことをお勧めします。家庭で話し合う環境を作ることは、地域の環境を作っていく第一歩であると思えます。

次に大切なのは、『大人に相談できる体制を作る』ことに相談』をいつも語っていくことです。もちろん、相談体制の中心は家庭であるべきです。しかし、家庭の側に、それができない場合もあります。これを補うために、小学校や中学校、公民館など地域の教育関係機関が連携していく必要があります。ネットの社会は『うちの子だけ』見ていては対応できません。あなたのお子さんは、ネットの中で『ほかのお子さん』とつながっているのですから。

◆規制から自制へ

自分を守るこれだけの5ヶ条

- 使い方のきまりをつくりましょう。(これはやめようルール)
- フィルタリングを利用しましょう。(安全確保)
- 使い方を記録してみましょう。(料金・時間・内容)
- なにかあったら、大人に相談! (自分で判断しない)
- 情報を共有しましょう。(学校・先生・警察)

子どもたちにとって、今では、ネットの中もホントの社会も、両方ともが『リアルな居場所』なのです。大人は、それを理解して、ただ『規制』するだけではなく、語り合っただ上で、子どもたちに『自制的心』を育むことが大切です。時代は、『規制から自制へ』変わっていくべきです。